

天竜川ダム再編事業 (事業費及び工期について)

令和7年9月18日
国土交通省中部地方整備局
天竜川ダム再編工事事務所

目次

1. 事業の概要	1
1) 流域の概要・現状	1
2) 事業の目的及び計画内容	3
3) 事業の経緯	6
4) 全体工程	7
5) 事業の進捗状況	9
2. 令和6年度予算	11
1) 実施内容	11
2) 事業実施箇所	12
3) 個別説明	13
3. 令和7年度予算	17
1) 実施内容	17
2) 事業実施箇所	18
3) 個別説明	19
4. 天竜川ダム再編事業における取り組み	22

1. 事業の概要

1) 流域の概要・現状

- ・天竜川は、幹川流路延長約213km、流域面積5,090km²の我が国で有数の大河川である。
- ・流域には、約163万人(10市12町15村)の人々が生活しており、この地域の産業・経済・社会・文化の基盤を築いてきた。

佐久間ダム(電源開発(株)S31完成)

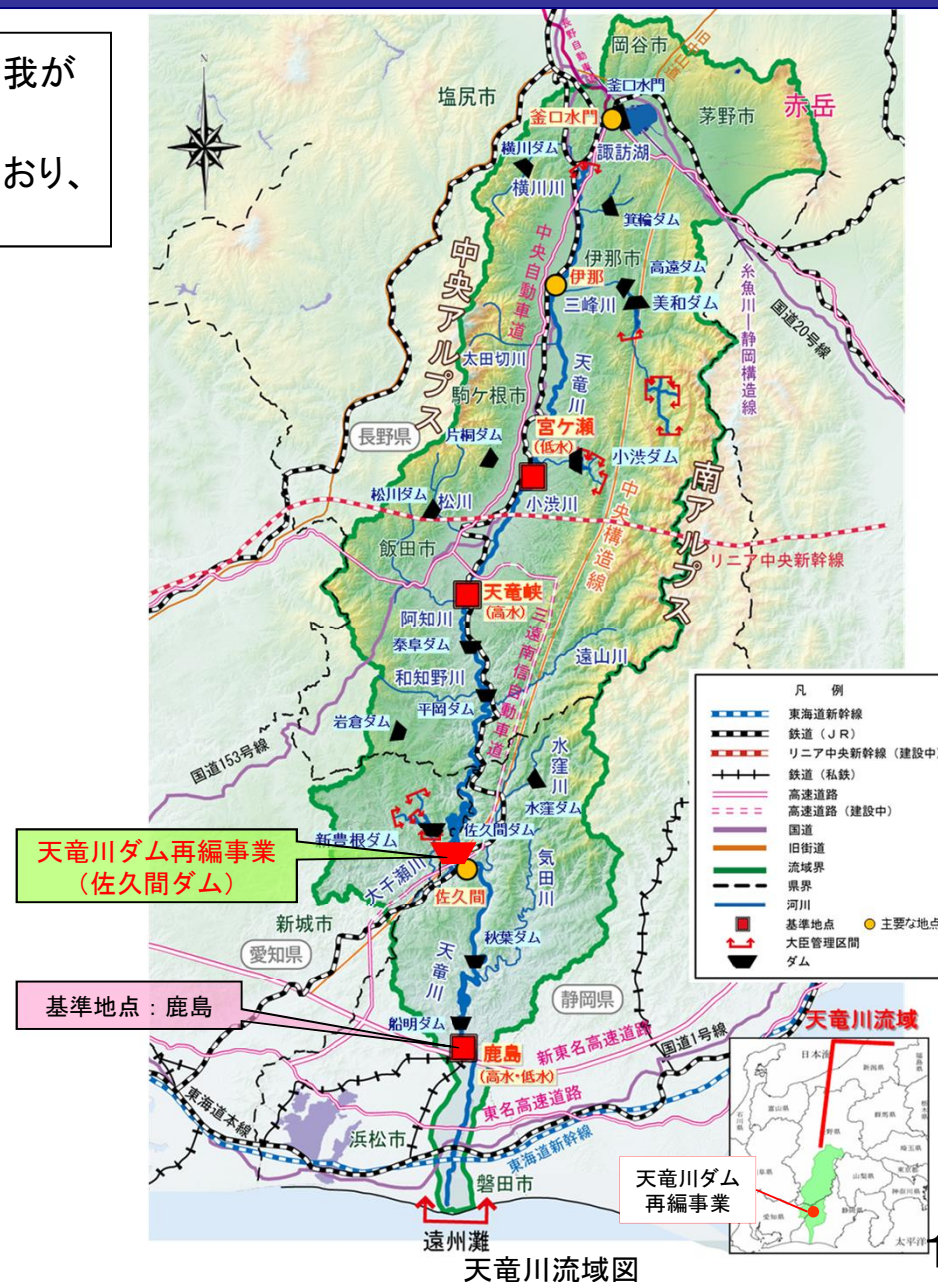


天竜川の流域概要

流域面積	5,090km ²
幹川流路延長	約213km
流域市町村数	10市12町15村※ ¹
主要都市	飯田市(約10万人)※ ² 浜松市(約80万人)※ ²
流域関係市町村人口	約163万人※ ²

※¹ 諏訪市、伊那市、飯田市(長野県)、浜松市、磐田市(静岡県)等

※² 人口の出典: 国勢調査(令和2年)



1. 事業の概要

1) 流域の概要・現状

- ・天竜川沿川市町村の人口に近年大きな変化はなく、下流氾濫域（浜松市、磐田市）では、市街地が形成され人口が集中している。
- ・天竜川下流流域内は、東名高速道路、国道1号、JR東海道新幹線等、東西を結ぶ、国土の基幹をなす交通の要衝となっている。
- ・平成24年4月から新東名高速道路が開通し、さらに令和9年度には全線開通予定など、新たな交通網の整備が進んでいる。
- ・浜松市並びにその周辺地域を含む浜松地域は、自動車産業、オートバイ産業、楽器産業が盛んであり、日本有数の「ものづくりのまち」として発展しており、日本経済を支える重要な地域となっている。

天竜川沿川市町村の人口推移

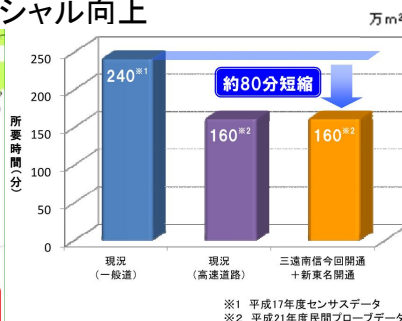


沿川市町村（15市町村）：浜松市、磐田市、飯田市、伊那市、駒ヶ根市、飯島町、松川町、高森町、宮田村、中川村、喬木村、豊丘村、南箕輪村、箕輪町、辰野町（出典：令和2年国勢調査）

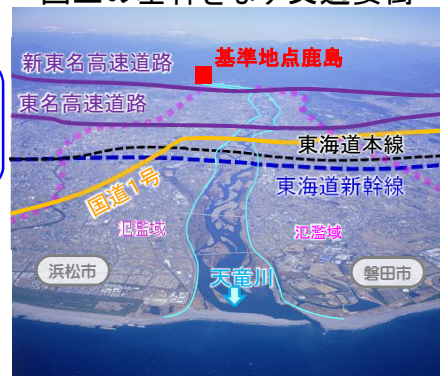
三遠南信自動車道による地域経済ポテンシャル向上



出典：三遠南信自動車道（鳳来峡IC～浜松いなさ北IC）
開通による整備効果の具体例



国土の基幹をなす交通要衝

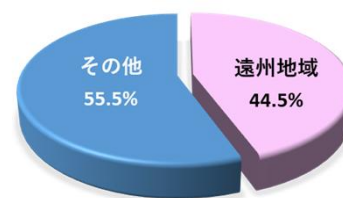


遠州地域の産業と全国シェア

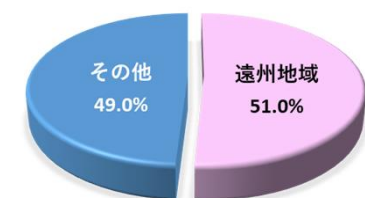
主な産業	全国比率
軽四輪自動車	51.0%※1
二輪車	44.5%※2
楽器（ピアノ）	100.0%※3

※1 浜松経済指標 2025
一般社団法人日本自動車工業会 生産四輪統計
※2 浜松経済指標 2025
※3 Myしずおか日本一 一覧表

二輪車生産台数全国比率※1



軽四輪車生産台数全国比率※2



遠州地域：浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、掛川市、菊川市、御前崎市、周智郡森町

※1 浜松経済指標 2025、一般社団法人日本自動車工業会 生産四輪統計
※2 浜松経済指標 2025

2) 事業の目的及び計画内容

(1) 事業の目的

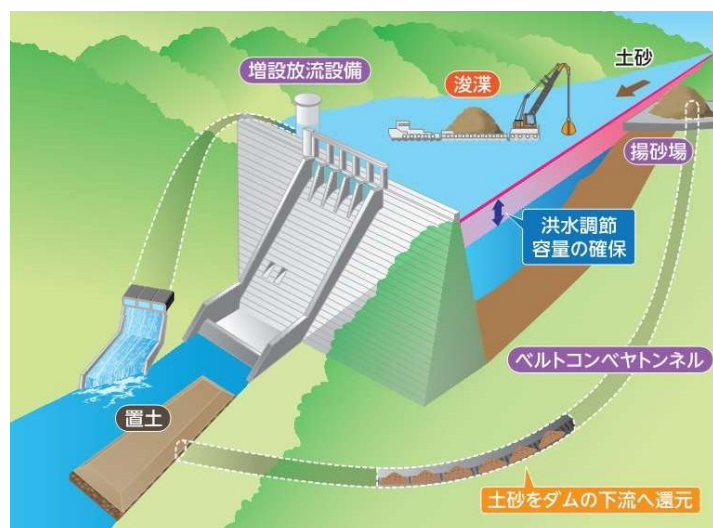
- ・既設の利水専用ダム(佐久間ダム;昭和31年(1956年)完成、電源開発(株))を有効活用し、新たに洪水調節機能を確保して、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。
- ・佐久間ダムに新たに確保した洪水調節容量を維持するとともに、ダム湖に流入する土砂の一部を河川に還元することで土砂移動の連続性を確保し、遠州灘沿岸の海岸侵食の抑制等への寄与を目指す。

(2) 計画内容

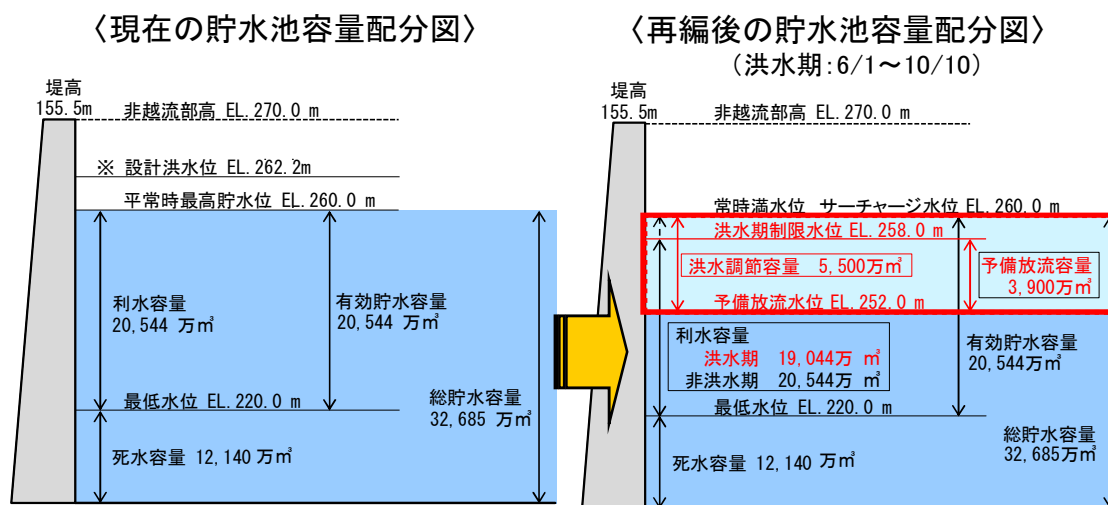
○実施箇所(天竜川水系天竜川) : (右岸) 愛知県北設楽郡豊根村 (左岸) 静岡県浜松市天竜区佐久間町

○計画内容

- ・洪水調節
佐久間ダムに新たに洪水調節容量を確保し、放流設備の増強を行う。
- ・恒久的な堆砂対策
洪水調節容量を維持し、ダム湖に流入する土砂の一部を河川に還元するための堆砂対策施設の整備を行う。



天竜川ダム再編事業のイメージ



※現構造令の名称では、サーチャージ水位に相当

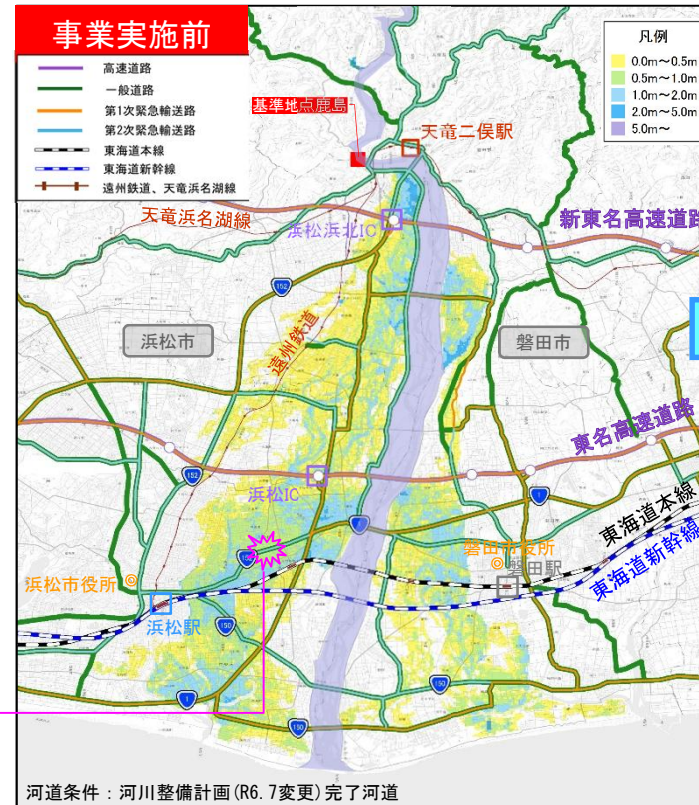
2) 事業の目的及び計画内容

①洪水調節

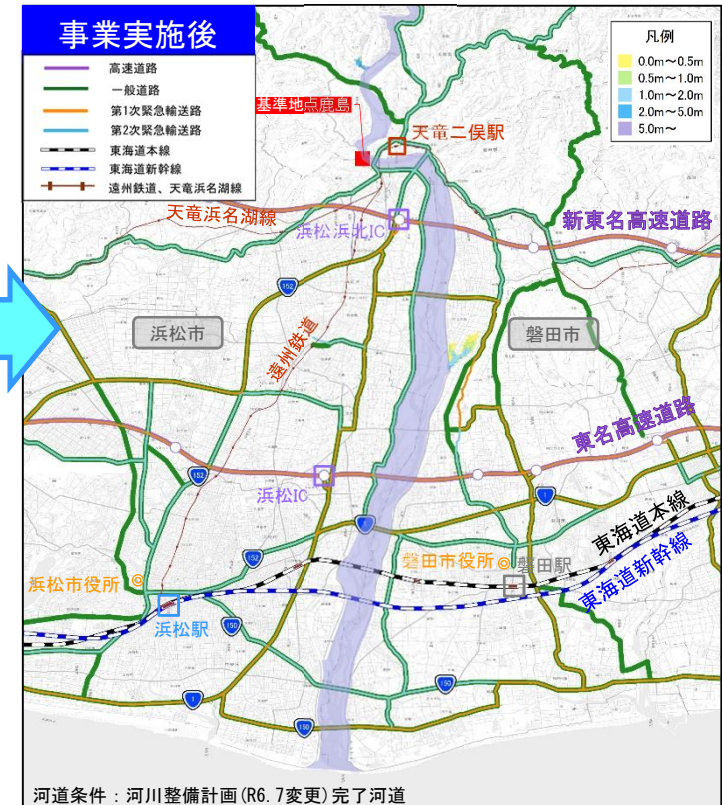
- ・気候変動後の状況下において、戦後最大規模と同規模の洪水により想定される浸水が発生した場合の被害は、浸水面積約9,200ha、被災人口約24.4万人、浸水家屋数約9.7万世帯と想定。
- ・既存施設での洪水調節を含め、基準地点鹿島において、河道配分流量を約16,400m³/sから約14,400m³/sに低減。
- ・天竜川ダム再編事業の実施及び河川整備計画(R6.7変更)にもとづく河川改修により浸水被害を概ね解消。



浸水のイメージ(国道152号)



浸水面積	約9,200ha
被災人口	約24.4万人
浸水家屋数	約9.7万世帯



浸水面積	48ha
被災人口	14人※
浸水家屋数	0世帯

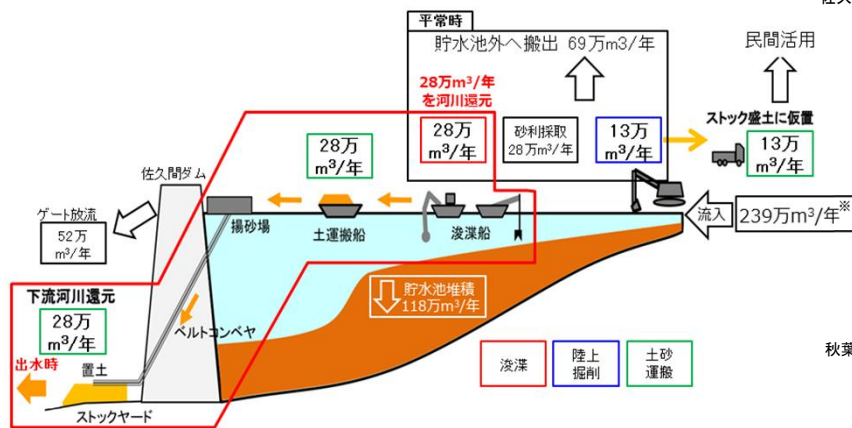
※浸水区域内人口及び最大孤立者数は、計算メッシュ内に浸水域がある場合にメッシュ内人口から算出されるため、事業実施後の浸水域内人口及び最大孤立者が計上されているが、土地利用が牧草地利用のみであり人的被害は解消される。

2) 事業の目的及び計画内容

②恒久的な堆砂対策

- 天竜川ダム再編事業にて実施する恒久的な堆砂対策は、佐久間ダムに新たに確保した洪水調節容量を維持するとともに、洪水時の背水による貯水池上流部における水位上昇の防止・軽減を目的に実施。
- 恒久的な堆砂対策により貯水池から浚渫した土砂は、ダム下流河川へ還元することで土砂移動の連続性を確保し、遠州灘沿岸の海岸侵食の抑制等へ寄与。
- 置土より河川に還元した土砂のほとんどが海岸に到達すると推定。

■恒久的な堆砂対策



※佐久間ダムへの流入土砂量(239万m³/年)は、上流ダム群(美和ダム、小渋ダム、松川ダム)の排砂操作を考慮した場合に想定される土砂量。
佐久間ダム貯水池内の土砂収支量は、佐久間ダム貯水池運用及び上流ダム群の排砂実績等によって今後変更する可能性がある。

出典 恒久的な堆砂対策イメージ図に第6回 天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会(令和2年2月6日)において審議された土砂収支(年平均)を記載。

河川に還元(置土)した土砂のほとんどが海岸に到達すると推定

■遠州灘沿岸の海岸侵食状況



■河川管理者、海岸管理者と連携して対策を推進



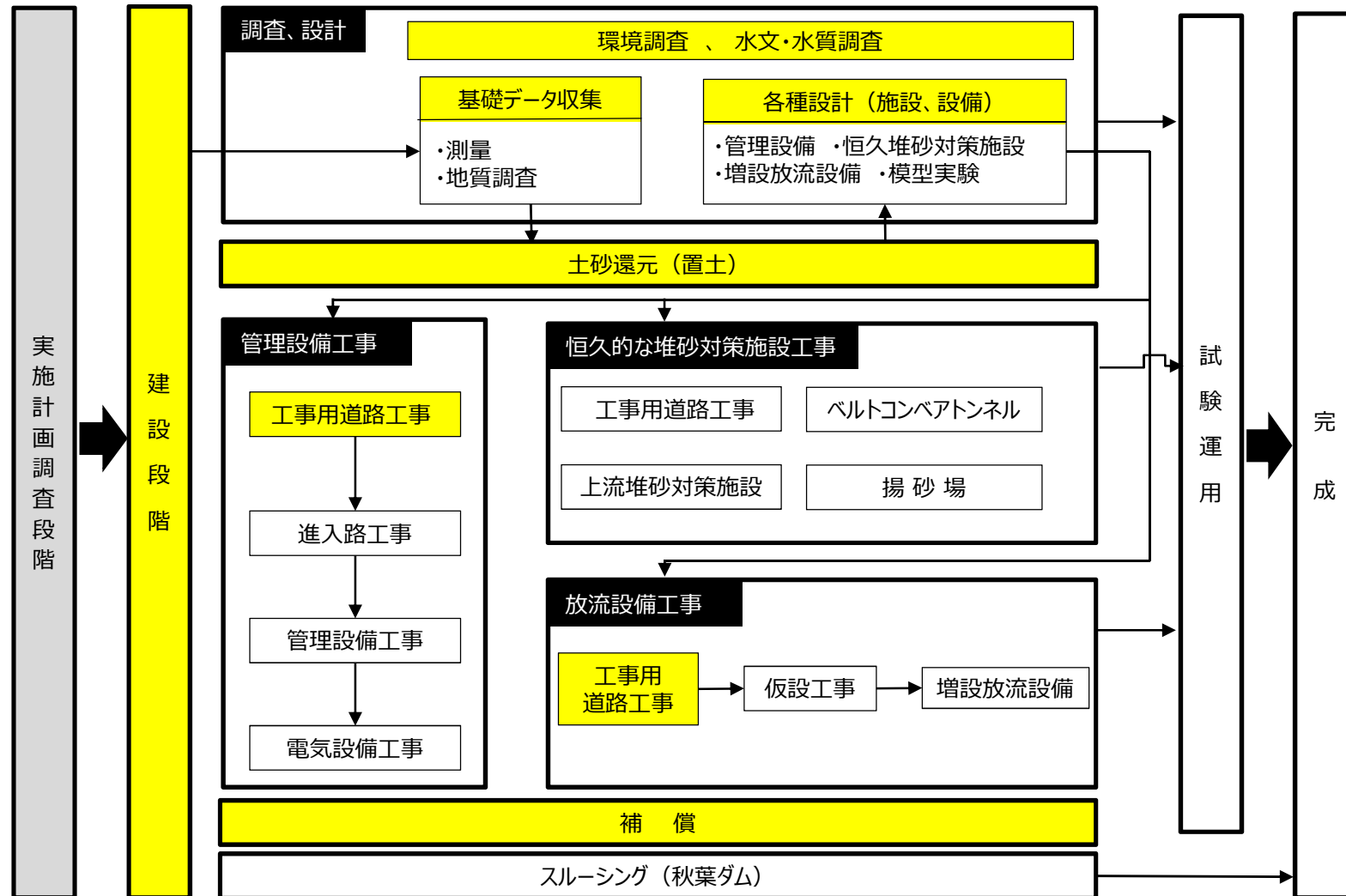
3) 事業の経緯

昭和31年	10月	佐久間ダム（電源開発）完成
平成16年	4月	実施計画調査に着手
平成20年	7月	天竜川水系河川整備基本方針策定
平成21年	4月	建設事業着手
	7月	天竜川水系河川整備計画策定
平成21年 ～ 平成25年		天竜川ダム再編事業 排砂工法実証実験検討委員会設置（全10回） ・（H25.2とりまとめ）堆砂対策工法として計画している吸引工法は、実証実験の結果佐久間ダムでの適応が困難
平成24年	7月	事業評価監視委員会にて審議（事業継続）
		対応方針：天竜川の治水安全度の向上のために、新たな洪水調節機能を確保することの重要性に鑑み、効果の早期発現に向け、事業の進め方を含めた段階的な対応について検討するとともに、引き続き恒久堆砂対策施設について検討を進めていくこととする。
平成28年 ～ 令和2年		天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会設置（全6回） ・（R2.2とりまとめ）堆砂対策工法の決定：吸引工法 → ベルトコンベヤ等を用いた置土、流入部土砂対策
令和2年	6月	天竜川水系流域委員会にて再評価、対応方針原案（事業継続）を了承（令和2年9月25日 対応方針（継続）を決定） ・工期延伸：令和3年度 ⇒ 令和13年度 ・吸引工法→ベルトコンベヤを用いた置土、流入部土砂対策（事業費は精査中のため変更せず）
令和5年	12月	天竜川水系河川整備基本方針を気候変動を踏まえて変更
令和6年	4月	天竜川ダム再編工事事務所の開設
令和6年	7月	天竜川水系河川整備計画変更
令和7年	7月	天竜川水系流域委員会にて再評価、対応方針原案（事業継続）を了承（令和7年8月26日 対応方針（継続）を決定） ・工期延伸：令和13年度 ⇒ 令和20年度 ・事業費変更：約790億円 ⇒ 約1,900億円

4) 全体工程

(令和7年3月末時点)

- 水文・水質調査、河川への土砂還元モニタリング、工事用道路工事及び関連する補償のほか、施設設計に必要な地質調査等の基礎データ収集、治水関連施設設計、堆砂対策施設設計を実施している。



■ : 実施済箇所 ■ : 現在実施中箇所

4) 全体工程

- ・令和19年度までに増設放流設備及び恒久的な堆砂対策施設等の整備を完成し、試験運用等を経て令和20年度に事業完了の予定。

年度		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	2034 (R16)	2035 (R17)	2036 (R18)	2037 (R19)	2038 (R20)
仮設備	工事用道路工事															
洪水調節	管理設備工事															
	放流設備工事															
	試験運用															
河川への土砂還元 貯水池維持	河川への土砂還元 モニタリング															
	堆砂対策施設工事															
	試験運用															
用地及び補償																

※工程は現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合があります。

※実施年度予算ベースに対しての着色。

5) 事業の進捗状況

○予算執行状況

- ・総事業費 約 1,900億円
- ・R6年度 約 11.7億円
(補正予算含む)
- ・R7年度 約 10.1億円
- ・R6年度迄 約 186億円
(進捗率 約 10%)

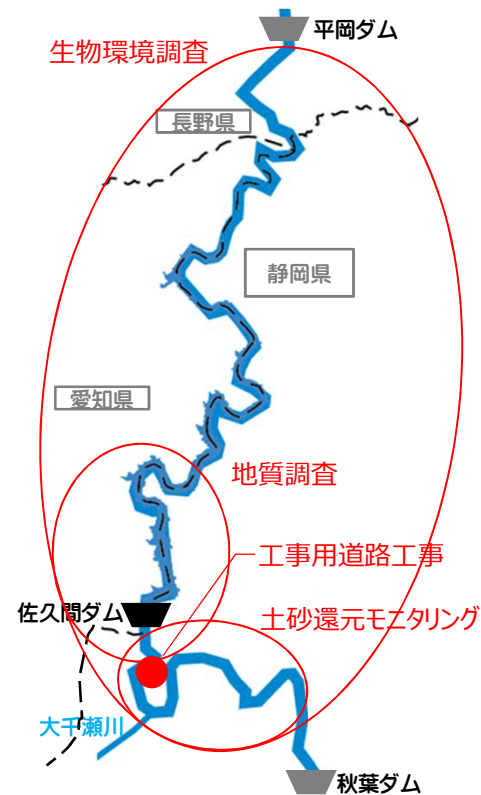
(令和7年3月末時点)

用地取得 (約14ha)	0%
工事用道路 (約2.0km)	50% (1.0km)
洪水調節	管理設備 放流設備 試験運用
貯水池維持 河川への土砂還元	堆砂対策施設工事 試験運用
事業進捗率 (約1,900億円)	10%

※ 工事用道路は着手した工事の施工延長進捗率

5) 事業の進捗状況

主な事業箇所



河床材料調査



採水分析



河川測量

土砂還元モニタリング



工事用道路工事（拡幅）



ボーリング調査



現場透水試験

地質調査



アユ生育調査



猛禽類調査（クマタカ）



両生類調査（カジカガエル）

生物環境調査

2. 令和6年度予算

1) 実施内容

○令和6年度予算額

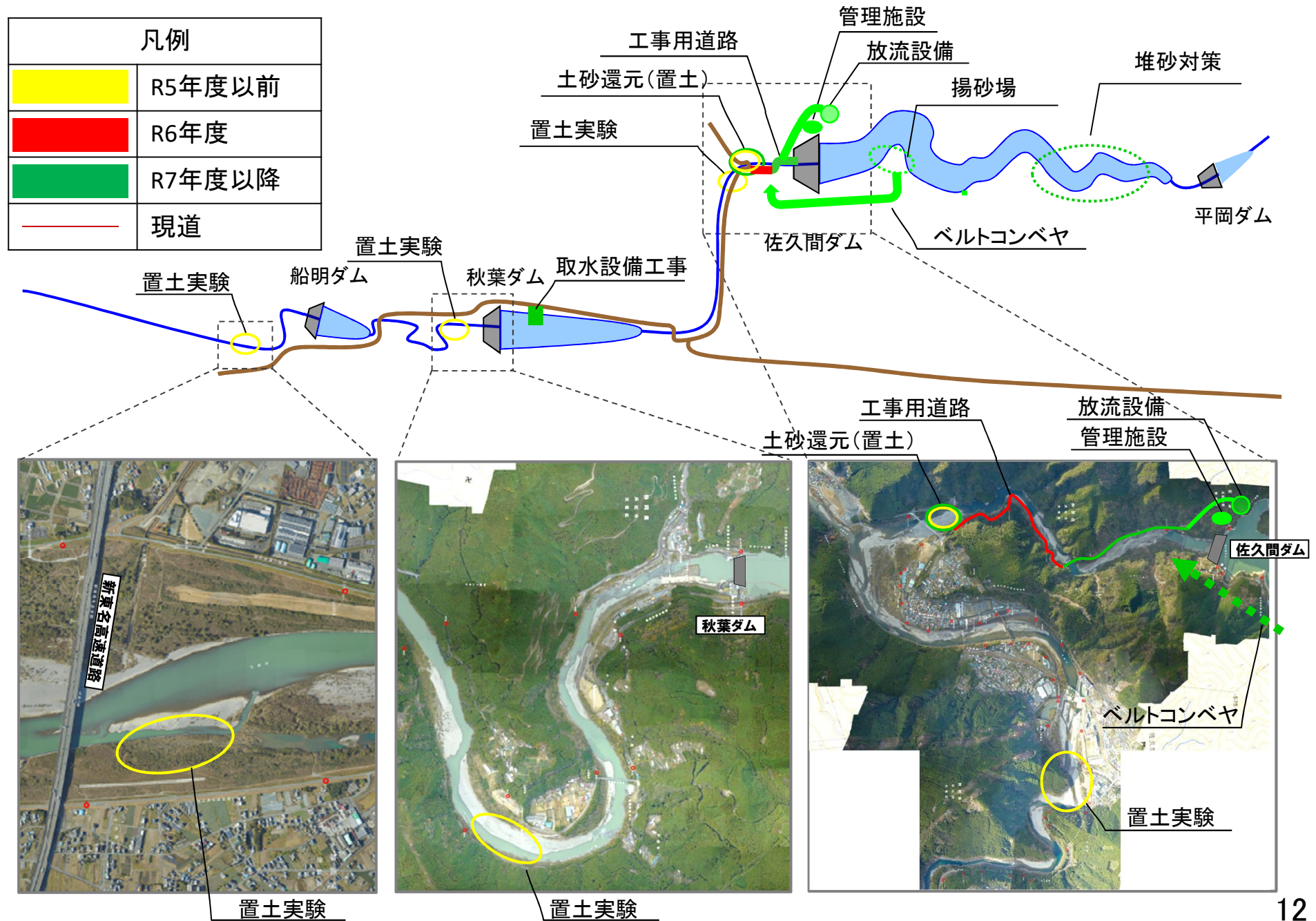
(単位:百万円)

予算費目	当初予算の主な実施内容	令和6年度当初予算				令和5年度補正予算			
		当初	変更	(増減額)	主な変更要因	補正	変更	(増減額)	主な変更要因
工事費		約 317.4	約 256.0	(-61.4)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
①治水対策関係	ダム下流工事用道路	約 142.1	約 248.4	(106.3)	【純増】ダム下流の道路拡幅に伴い補強土壁基礎の掘削中において掘削面の節理が想定以上に発達しており掘削面の崩落が生じたため、工法を変更したことによる増	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
	操作室敷地造成工事用道路	約 159.9	約 0.0	(-159.9)	【先送り減】操作室敷地造成に伴う工事用道路整備において取付位置と現道トンネル坑口部が近接、視距改良対策について道路管理者及び公安委員会との協議に時間を要し、工事発注を延期したことによる減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
②その他	発注者支援等	約 15.4	約 7.6	(-7.8)	【その他減】落札差金による減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
測量設計費		約 571.6	約 635.3	(63.7)		約 80.0	約 80.0	(0.0)	
①継続調査	モニタリング調査、環境調査	約 45.0	約 60.4	(15.4)	【純増】猛禽類(クマタカ)の抱卵・孵化が確認されたことを受け、今後の事業実施による影響の有無を確認するため、幼鳥の行動範囲調査等を追加実施したことによる増。また、恒久的堆砂対策による河川への土砂還元の実施による河床の返上把握のための河床材料調査を専門家等からの意見を踏まえ、追加実施したことによる増。	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
②用地・建物調査	用地調査、権利調査	約 45.0	約 16.3	(-28.7)	【先送り減】用地調査において地権者承諾が得られなかったことによる減	約 15.8	約 15.8	(0.0)	
③治水対策関係	施設設計・施設設計に伴う地質調査等	約 226.0	約 292.7	(66.7)	【純増】放流設備の型式変更に伴う施設設計のための地質調査箇所追加及びボーリング実施数量の精査による増	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
④堆砂対策関係	施設設計・施設設計に伴う地質調査等	約 55.0	約 53.6	(-1.4)	【その他減】落札差金による減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
⑤地すべり調査関係	貯水池周辺地質調査等	約 162.3	約 178.6	(16.3)	【その他増】ボーリング調査の実施数量の精査による増	約 64.2	約 64.2	(0.0)	
⑥その他	発注者支援等	約 38.3	約 33.8	(-4.4)	【その他減】落札差金による減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
用地費及び補償費		約 1.0	約 0.0	(-1.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
①立木補償	操作室工事用道路	約 1.0	約 0.0	(-1.0)	【先送り減】立木補償額算定に必要な立木調査に時間を要し発注取りやめによる減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
船舶及び機械器具費		約 9.7	約 9.7	(0.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
①電気通信設備 保守点検等	電気通信保守点検等	約 9.7	約 9.7	(0.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
事業車両費		約 1.4	約 0.1	(-1.3)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
①車両管理関係	車両管理・点検等	約 1.4	約 0.1	(-1.3)	【その他減】実施数量の精査による減	約 0.0	約 0.0	(0.0)	
工事諸費等		約 107.3	約 107.3	(0.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
①営繕・宿舍・車両・広報費等	営繕・宿舍・車両・広報費等	約 107.3	約 107.3	(0.0)		約 0.0	約 0.0	(0.0)	
予算額		約 1,008.3	約 1,008.3	(0.0)		約 80.0	約 80.0	(0.0)	

※令和5年度補正予算は、令和5年11月29日に成立

※前回の事業費等監理委員会(令和7年7月)において示した事業費(約1,900億円)・工期(令和20年度)は、令和6年度予算の実施内容を踏まえたものである。

2) 事業実施箇所

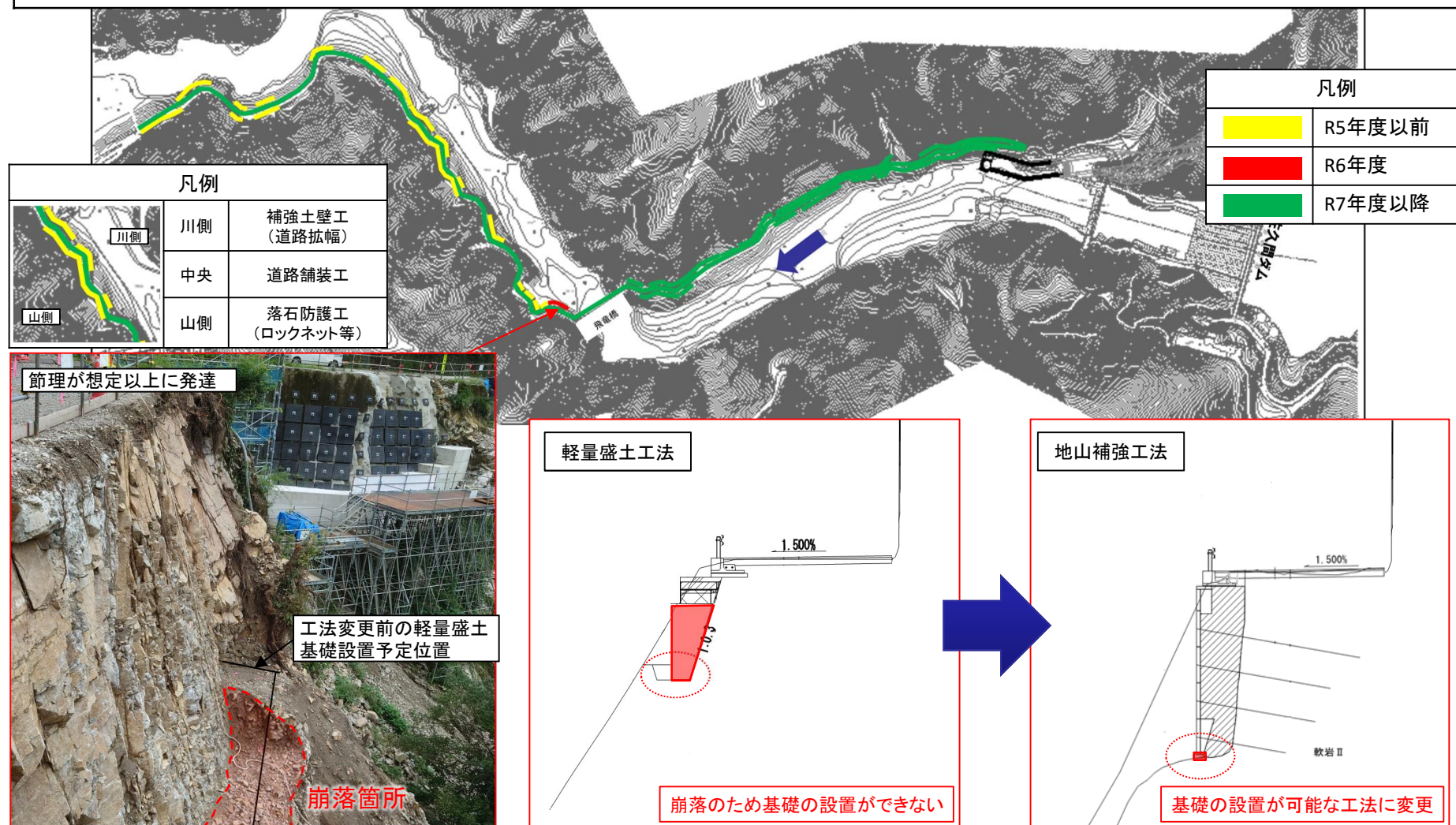


3) 個別説明

(1) 治水対策関係 工事費の主な変更要因

変更要因

【106.3百万円 純増】ダム下流の道路拡幅に伴い補強土壁基礎の掘削中において掘削面の節理が発達しており掘削面の崩落が生じたため、工法を変更したことによる増

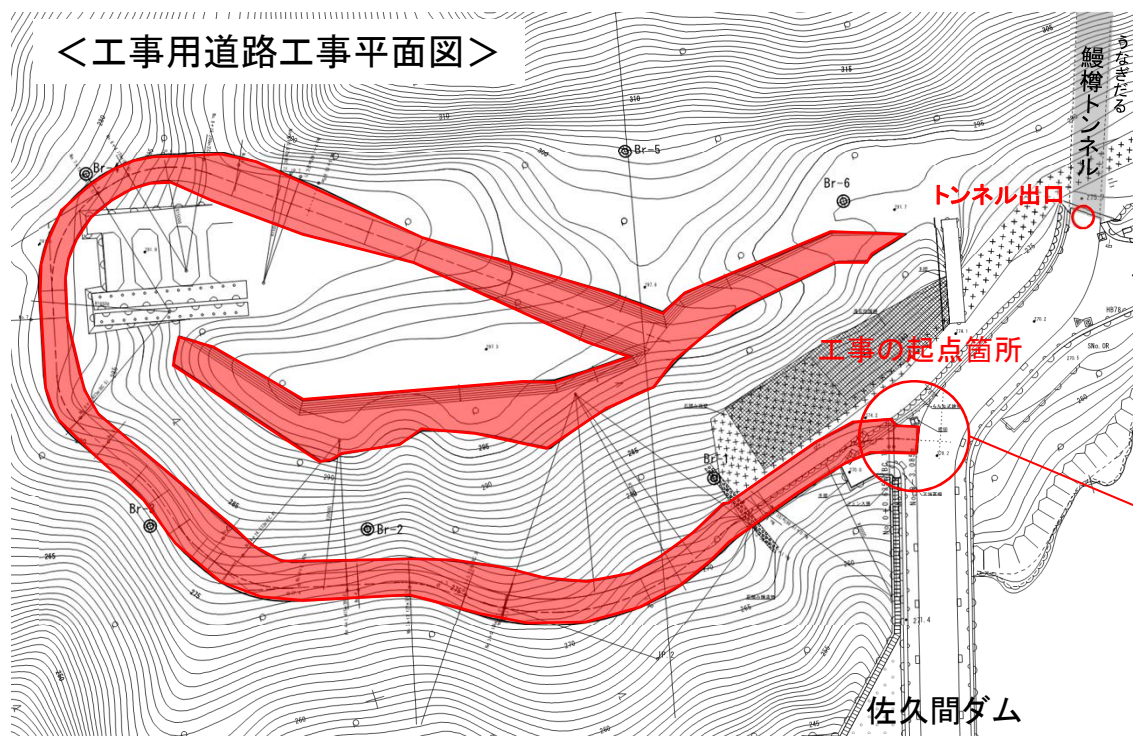


3) 個別説明

(2) 治水対策関係 工事費の主な変更要因

変更要因

【159.9百万円 先送り減】操作室敷地造成に伴う工事用道路整備において取付位置と現道トンネル坑口部が近接しており、視距改良対策について道路管理者及び公安委員会との協議に時間を要し、工事発注を延期したことによる減



3) 個別説明

(3) 継続調査関係 測量設計費の主な変更要因

変更要因

【15.4百万円 純増】猛禽類(クマタカ)の抱卵・孵化が確認されたことを受け、今後の事業実施による影響の有無を確認するため、幼鳥の行動範囲調査等を追加実施したことによる増。また、恒久的堆砂対策による河川への土砂還元の実施による河床の変状把握のための河床材料調査を専門家等からの意見を踏まえ、追加実施したことによる増。

<猛禽類調査実施時期>

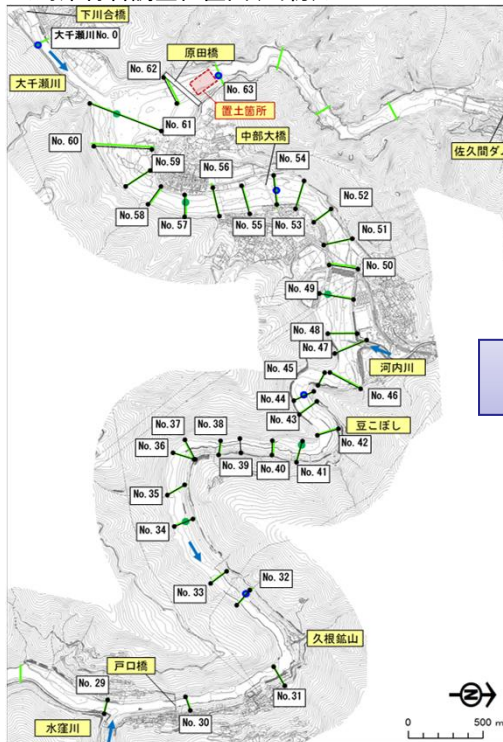
調査項目	年 月	令和6年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
猛禽類調査	クマタカの繁殖期	令和6年繁殖期											
							①	②			追加①	追加②	

調査項目	年 月	令和7年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
猛禽類調査	クマタカの繁殖期	令和7年繁殖期											
			③		④								

<確認されているクマタカの写真>

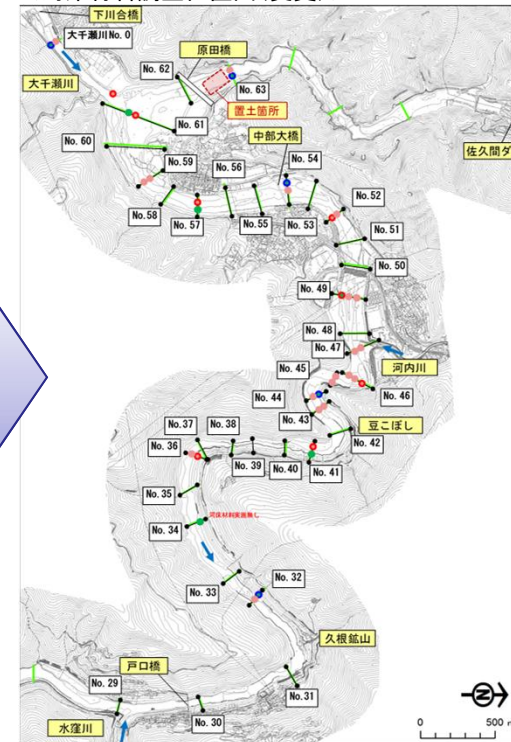
	
幼鳥【E '24】餌乞い鳴き (R6. 12. 20 撮影)	幼鳥【E '24】止まり (R7. 2. 28 撮影)
	
つがい雌雄不明【EMorEF】飛翔 (R7. 2. 26 撮影)	つがい雌雄不明【EMorEF】飛翔 (R7. 4. 30 撮影)

<河床材料調査位置図(当初)>



- 応用測量実施測線（定期横断測量、河川深浅測量 34測線）
- 河床材料調査地点（面積格子法10地点）
- 河床材料調査地点（容積サンプリング法5地点）

<河床材料調査位置図(変更)>



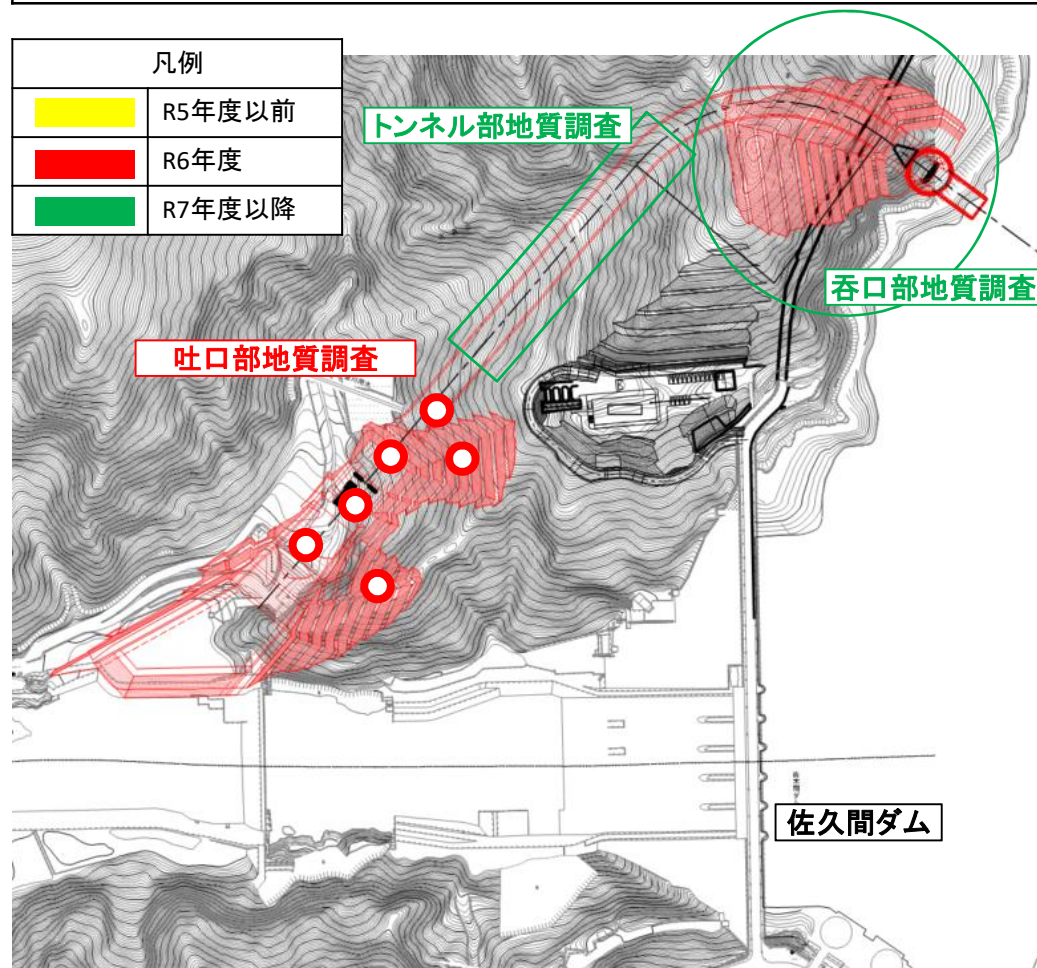
- 応用測量実施測線（定期横断測量、河川深浅測量 34測線）
- 河床材料調査地点（面積格子法9地点）
- 河床材料調査地点（容積サンプリング法5地点）
- 【追加】河床材料調査地点（面積格子法26地点）
- 【追加】河床材料調査地点（容積サンプリング法8地点）

3) 個別説明

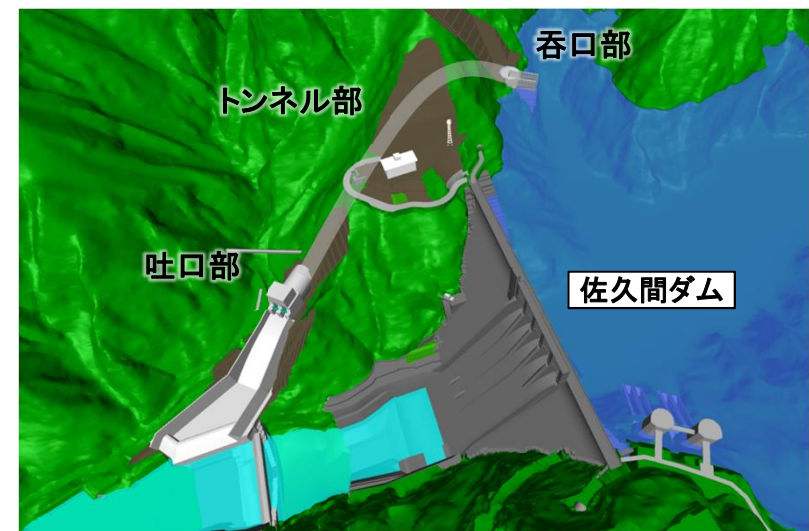
(4) 治水対策関係 測量設計費の主な変更要因

変更要因

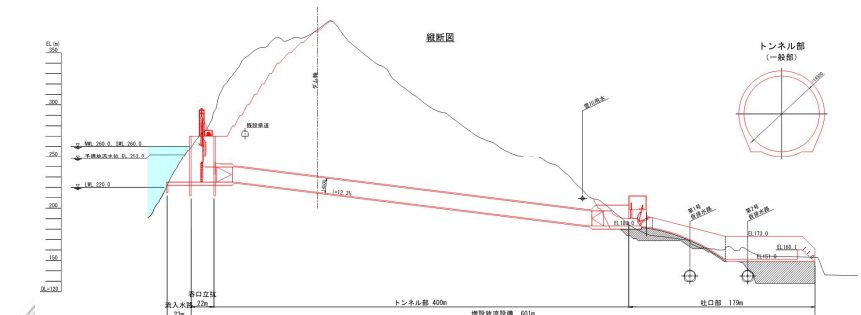
【66.7百万円 純増】放流設備の型式変更に伴う施設設計のための地質調査箇所の追加及びボーリング実施数量の精査による増



増設放流施設平面図



増設放流施設CIMIによるイメージ



増設放流施設縦断面図

3. 令和7年度予算

1) 実施内容

○令和7年度予算額

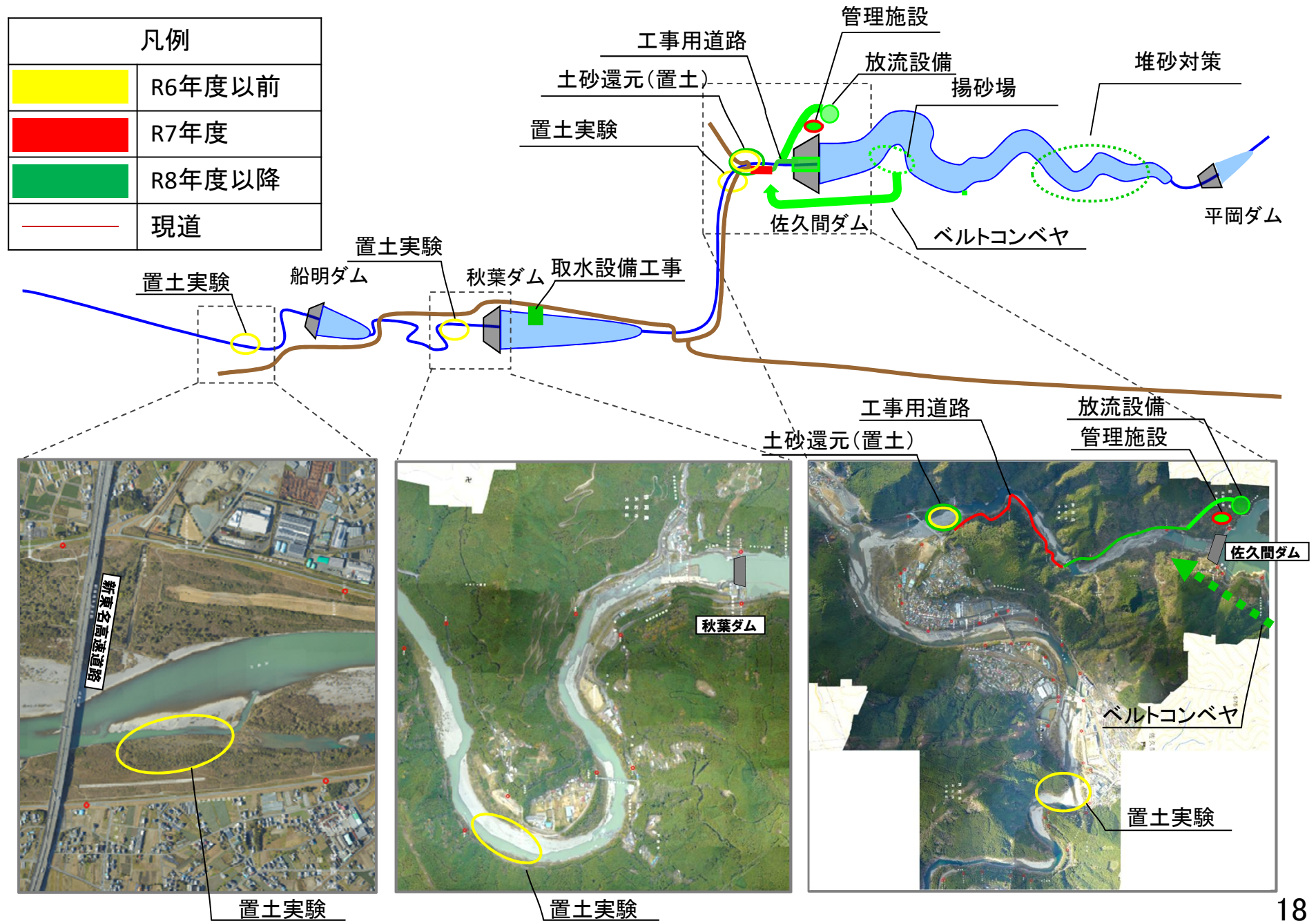
(単位: 百万円)

予算費目及び主な実施内容			令和7年度当初予算	(参考値) 令和6年度当初予算	(参考値) 令和6年度当初予算変更	令和6年度補正予算
工事費			約 477.6	約 317.4	約 256.0	約 0.0
	①治水対策関係	ダム下流工事用道路	約 30.0	約 142.1	約 248.4	約 0.0
		操作室敷地造成工事用道路	約 440.0	約 159.9	約 0.0	約 0.0
	②その他	発注者支援等	約 7.6	約 15.4	約 7.6	約 0.0
測量設計費			約 401.9	約 571.6	約 635.3	約 160.0
	①継続調査	モニタリング調査、環境調査、土砂還元影響予測	約 139.0	約 45.0	約 60.4	約 0.0
	②用地・建物調査	権利調査、兼用化施設調査	約 45.0	約 45.0	約 16.3	約 0.0
	③治水対策関係	治水計画検討、施設設計・施設設計に伴う地質調査等	約 149.7	約 226.0	約 292.7	約 67.0
	④堆砂対策関係	施設設計・施設設計に伴う地質調査等	約 27.5	約 55.0	約 53.6	約 0.0
	⑤地すべり調査関係	貯水池周辺地質調査等	約 0.0	約 162.3	約 178.6	約 93.0
	⑥その他	発注者支援等	約 40.7	約 38.3	約 33.8	約 0.0
用地費及び補償費			約 8.0	約 1.0	約 0.0	約 0.0
	①用地取得	佐久間ダム右岸操作室	約 8.0	約 1.0	約 0.0	約 0.0
船舶及び機械器具費			約 9.7	約 9.7	約 9.7	約 0.0
	①電気通信設備保守点検等	電気通信保守点検等	約 9.7	約 9.7	約 9.7	約 0.0
事業車両費			約 1.4	約 1.4	約 0.1	約 0.0
	①車両管理関係	車両管理・点検等	約 1.4	約 1.4	約 0.1	約 0.0
工事諸費等			約 114.4	約 107.3	約 107.3	約 0.0
	①営繕・宿舍・車両・広報費等	営繕・宿舍・車両・広報費等	約 114.4	約 107.3	約 107.3	約 0.0
予算額			約 1,013.0	約 1,008.3	約 1,008.3	約 160.0

※令和6年度補正予算は、令和6年12月17日に成立

※令和7年度当初予算には、補正予算は含まない

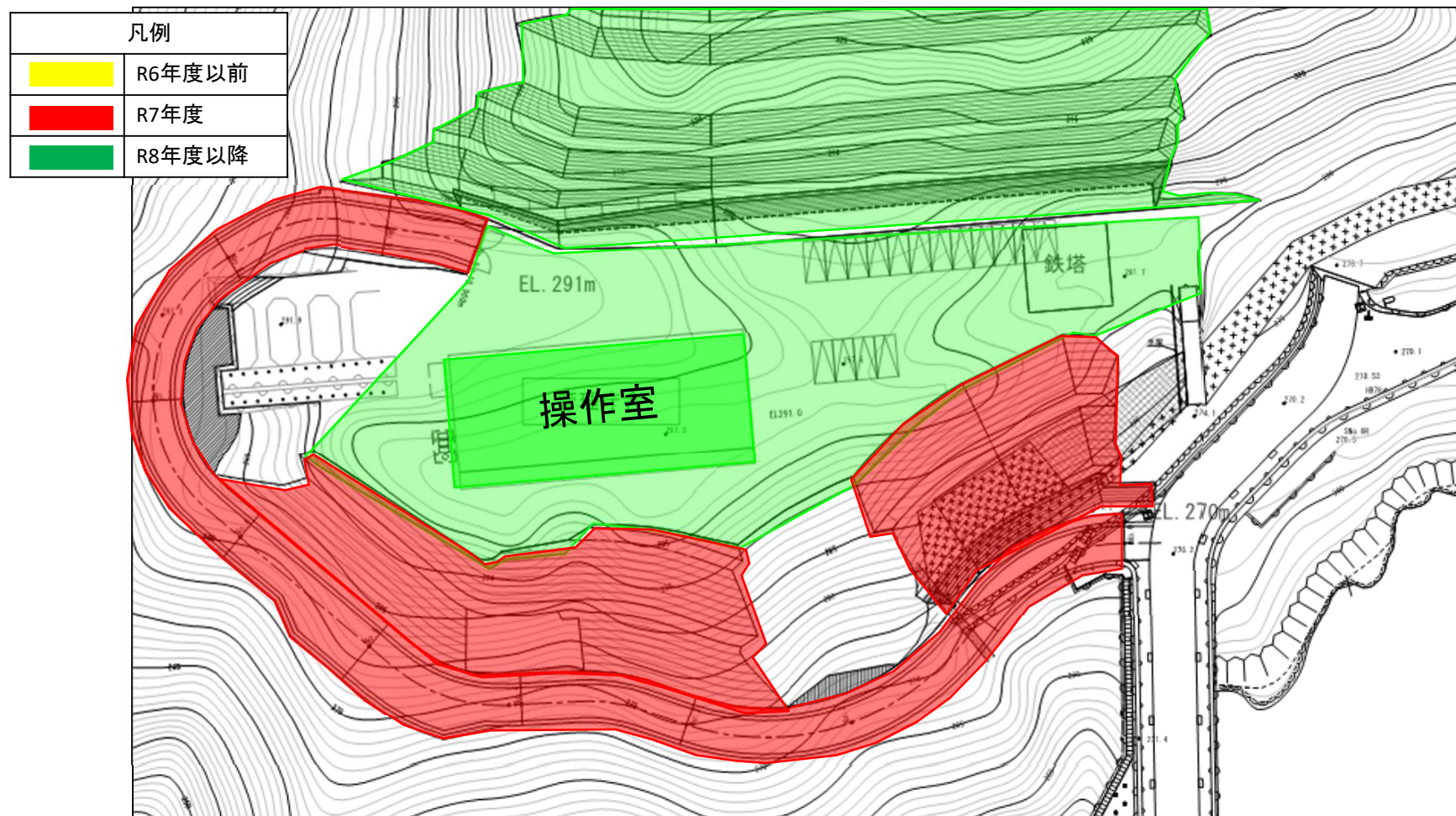
2) 事業実施箇所



3) 個別説明

(1) 治水対策関係 工事費

当初(百万円)	実施内容
約440.0	天竜川ダム再編事業に関する管理施設への進入路工事を実施



3) 個別説明

(2) 継続調査関係 測量設計費

当初(百万円)	実施内容
約139.0	天竜川ダム再編事業に関する物理環境及び生物環境調査、土砂還元による河道の変化等を予測するためのシミュレーションを実施

<物理環境調査>

河川測量



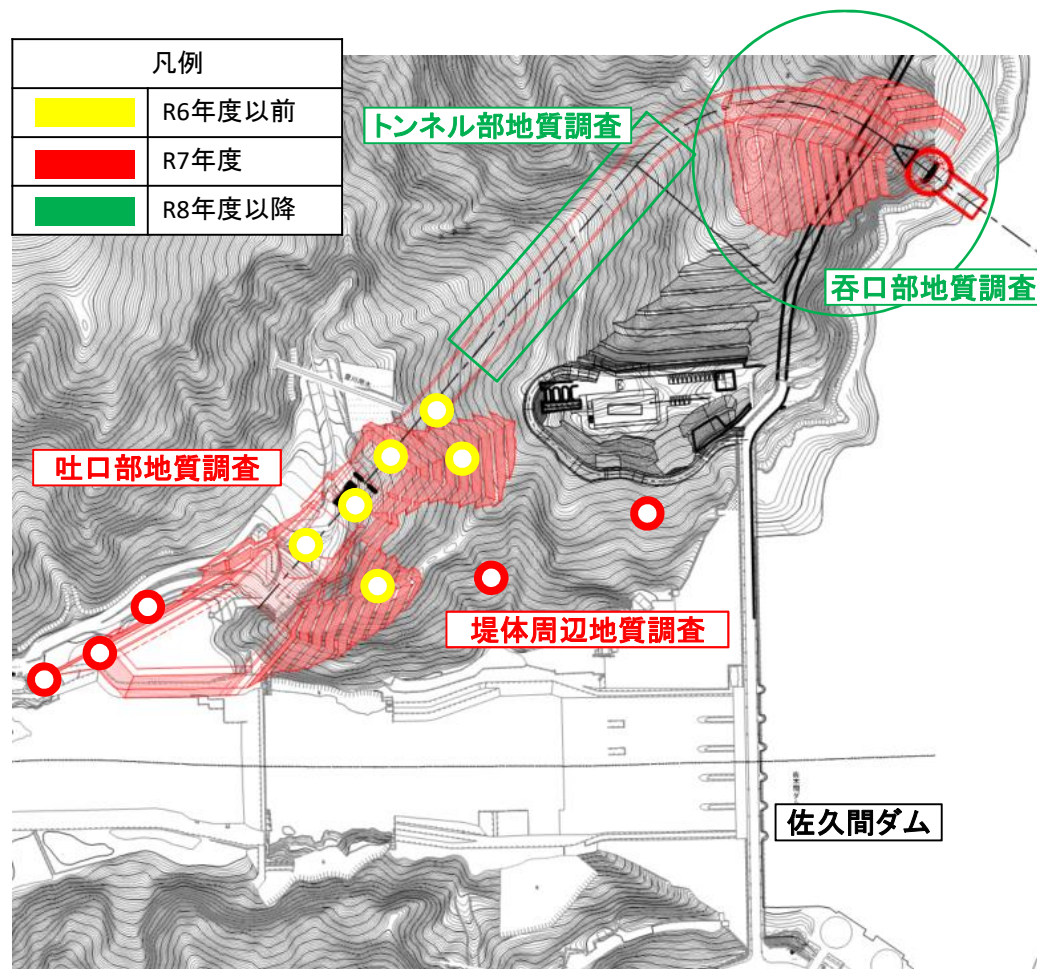
<生物環境調査>



3) 個別説明

(3) 治水対策関係 測量設計費

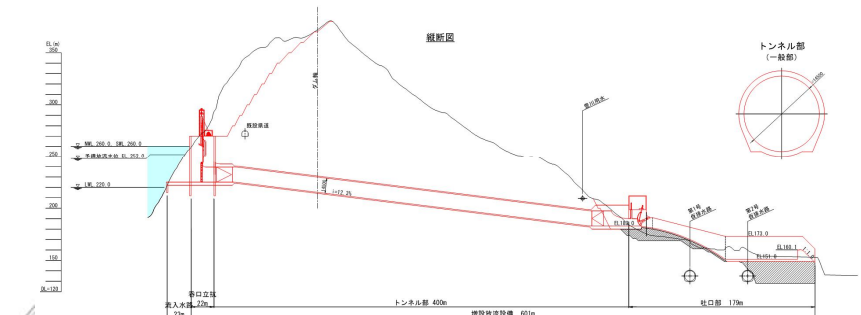
当初(百万円)	実施内容
約149.7	天竜川ダム再編事業に関する増設放流設備の設計及び設計等に伴う地質調査を実施



増設放流施設平面図



増設放流施設CIMIによるイメージ



増設放流施設縦断図

4.天竜川ダム再編事業における取組

- 佐久間地区には豊かな自然と天竜川を軸とした文化に根差した祭りや食文化などの魅力あふれる資源にあふれ、「NPO法人がんばらまいか佐久間」や「#佐久間ダム際ワーキング」などが主体となって地域資源を生かした地域づくりに取り組んでいる。
- 三遠南信トライアングルの中にある佐久間地区の強みや地域資源を生かした地域づくりと協働しながら、住民が関わりやすいテーマを通じて事業理解の促進を図る。

佐久間地域住民による地域づくり

地域・世代を越えた交流



越境学習ツアー
(#佐久間ダム際ワーキング)

地域資源



森林伐採体験
(森林組合)



地域力向上



佐久間新そばまつり
(NPO法人がんばらまいか佐久間)

Etc.

文化伝承



純粋はちみつ
(ミキの会)

竜神まつり

4.天竜川ダム再編事業における取組(事業地での取組)

- 地域有志等(NPOがんばらまいか佐久間等)を中心に企画する佐久間の大イベント「第25回佐久間新そばまつり」に天竜川ダム再編事業の理解促進・認知向上を目的に事業PRブースを設置した。
- 佐久間地域住民や浜松市等の事業受益地からの来場者を主体に、約500名がPRブースを訪問され、事務所職員とのコミュニケーションを通じて、事業内容のPRとあわせて、普段は得られない地域住民の想いの情報収集を行った。



参加型アートの様子



来訪者との対話が多く生まれました



天竜川ダム再編事業へ関心をもってもらう



天竜川や佐久間地域、新そばまつりへの想いを綴った花びら



子ども大人も夢中になれる、天竜川のお魚釣り体験



4.天竜川ダム再編事業における取組(受益地での取組)

- 磐田市主催で、官公庁、土木業者、大学など多数の土木関係団体が協力して「いわた土木LOVEフェスタ2025」が6/7(土)に開催され、天竜川ダム再編事業及び天竜川ダム再編工事事務所の認知度向上を目的に事務所ブースを設置しました。
- 磐田市や周辺市町から、約2500人を動員した国内最大級の子どもの向け土木イベントで、当事務所ブースにも約100名の子どもたちが訪れました。
- 子どもたちに天竜川の生態系に関心を持ってもらう目的で設置したお魚釣り体験は大人気でした。また、事業概要と併せて放映した佐久間ダムの建設当時の写真に、親世代、祖父母世代も足をとめていただきました。



雨天延期の日程でも大盛況となった

